

2019年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	越前市の北部に位置し、併設事業には、デイサービス、認知症対応型デイサービス、訪問介護、居宅介護、地域包括があります。地域との繋がりを大切にすることを重視し、地域支援として、認知症カフェや地域との祭り、家族会なども開催しています。生協10の基本ケアという、その人らしい生活を取り戻してもらうための支援を行いながら、“普通の暮らし”を取り戻す支援を目指します。地域の方も協力的で区長、老人会、民生委員との連携もとれています。地域の防災訓練、社会奉仕などの参加や近くの高校と、毎年、交流学习も実施しています。
事業所名	県民せいきょう小規模多機能ホーム 丹南きらめきハウス	管理者	佐々木麻美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	3人	人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の項目で、職員の取組みについての発信ができていなかったもので、現在取り組んでいる事や、参加した研修等の報告を毎月発行の広報誌「ぽっかぽか」等に記載していく。	職員の取組みや研修の報告について、運営推進会議等での報告は出来たが、広報誌の記載には至らず、外部への発信には課題が残った。	外部評価で聞かれる質問の内容が良くわからない 常勤かどうかを問う設問があるが、どの職員が常勤かわからない。 きらめきがどのような活動をしているか、分かりづらい。	運営推進会議等で報告した取組みは、広報誌などを活用し、外部への発信方法を考え伝えていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・身体拘束防止のため、今後も変わらず施錠をせず、職員が利用者の外出に気がつけるように玄関ドアに鈴をつけたり、個別対応したりして、見守りを強化する。 ・音楽やシアタールームなど利用者さんに喜ばれた事は継続して提供していく。	・利用者の外出に気付くため、職員の見守りの意識を高めた。施錠やドアの鈴に頼るのではなく、利用者に個別に対応し離棟防止に努めた。 ・利用者のくつろぎスペースとして和室の活用、カラオケルームの利用などを提供した。	・大声を出す人がいる。自分の居場所があるといい。 ・建物の中が、迷路みたいで分かりにくい。	利用者が個々に、自分のくつろげる好きなスペースで過ごせるように 和室の環境整備し、カフェスペースとしての提供を積極的に行う。
C. 事業所と地域のかかわり	・夢カフェ(認知症カフェ)、認知症サポーター講座、避難訓練などの地方の方との関わりを継続していく。 ・今後も近隣の住民や企業と連携する方法を模索していく	・認知症カフェ、認知症サポーター講座、避難訓練など地域と事業所が連携し、職員も交代で皆が関われるよう努めた。 ・きらめき祭では、地域の方々や企業にご協力頂き、例年よりさらに賑わい、好評であった。	・以前会議で、どんど焼きの案内をしたら、今年利用者の方も参加してくれた。これからも地域の案内をさせて貰います。	職員だけでなく、利用者とともに地域のイベント、認知症カフェ、防災訓練などに参加していくことを検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・外に出る機会を提案する際、本人の気持ちや季節に応じた内容を企画、提案していく ・地域のイベント等で本人の行きたいと思っている場所に行けるよう支援する	・利用者ごとの要望を聞きだし、個々にその方に応じた地域のイベント、コンサートへの外出を提案し実施した。一人一人の想いを叶えるために、情報収集に努めた。	畑の草取りや、おやつの買い物に行くと話していた。季節の外出も楽しみにしているようだ。 ・美術館見学と、外食に連れて行ってもらい楽しめた。	行きたいと思っている場所やイベントに、一緒に出かける支援をしていく。 事前の企画だけにとらわれず、季節に応じた外出の機会を増やしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・地域で困っている事や、利用者さんの処遇に関しての検討が運営推進会議でできるようレジュメの中に追加する。	運営推進会議に参加くださる地域の方や、ご家族の方の要望や困っている事を拾い上げ、検討した。	運営推進会議を利用した講座などを開催して貰いたい。	運営推進会議にたくさんの方に来てもらえるよう、開催曜日・時間、内容の検討をする。
F. 事業所の防災・災害対策	・今後も運営推進会議等で防災訓練を外部の方に見学していただく。 ・訓練の際は、様々な場面を想定し、見学者も概要を想定しながら見る事ができるよう配慮する。	防災訓練を運営推進会議と同じ日にし、参加者や地域の方にも見学していただく中での訓練を行なった。火災、地震、夜間など色々な場面を変化させて想定して行っている。見学者からは意見を貰う事ができ、今後活かす事が出来ている	・非常口の表示があるといい。 ・地域の避難訓練では、役割を決めて動いているが、事業所でもそのようにしていますか？	・避難経路、段差などバリアフリーのチェックをする。 ・事業所で作成した災害福祉計画を、全職員で共有し訓練を行い役割も提示する。